

選挙カーから連呼、街頭演説

入試直撃受験生に配慮を

入試シーズン真っただ中に行われる衆院選で、受験生からは選挙活動での配慮を求める声が上がっている。自宅や塾で最後の追い込みをかける時期であり、入試当日の学校周辺だけでなく、駅前や住宅街での街頭演説や選挙カーからの連呼が「迷惑行為」となりかねない。期間中には社会福祉士や医師の国家試験もあり、「極力静かにする」と街頭活動を控える陣営も出ている。

者は「入試日程の変更は難しい。候補者の配慮を願うしかない」とこぼす。東京5区で日本維新の会から立候補する稲葉太郎氏は、入試や各種検定試験の会場運営をする会社を経営しており、受験生の状況がよく分かる。「街頭演説や選挙カーの流し方は最大限配慮する。選挙の音が試験会場に聞こえることは絶対に避けたいといけない」と力説する。

日本大の末富芳教授（教育学行政学）は「自粛する陣営」として、期日前投票を活用して投票所に足を運ぶよう促した。官邸で記者団の取材に答えた。厳寒期の選挙戦に触れ

しまう。選挙の実施時期や活動の在り方について、改めて法整備を検討する時期が来ている」と指摘した。

受験生に投票 首相が促す

高市早苗首相は23日、大入試の時期と重なる衆院選日程を踏まえ「受験生の皆さまには負担をかけるが、日本の将来を決める大切な選挙だ」として、期日前投票を活用して投票所に足を運ぶよう促した。官邸で記者団の取材に答えた。厳寒期の選挙戦に触れ

選挙に関わる 除雪は国費で

官房長官

「特に雪国の皆さんには足元の悪い中、投票所までご足労いただくことになる。恐縮に思っている」と述べた。政府は21日、大雪予報を受けて、首相官邸の危機管理センターに設置していた情報連絡室を官邸対策室に格上げした。

中学受験に向けて指導を受ける小学6年生ら1120日、東京都北区



塾や自宅で最後の追い込み

私立大入試は1月から全国各地で始まり、2月から本格化。東京都内では2月1日から中学受験が行われる。北区の個別指導塾「渡辺塾」では、受験を目前に控えた多くの小中高生が勉強に励む。渡辺浩塾長（54）は「子どもは何年間もかけて準備してきた。なぜ今なのかと思ってしまう」と戸惑いを隠さない。

小学6年の女子児童（12）は「鉛筆が落ちる音でも気が散ることがあるから心配」と不安げな表情を見せ、都立高3年の男子生徒（17）は「本命の受験日と重なる。せめて試験時間中は静かにしてもらえたら」と訴えた。公選法は学校周辺などでは「静穏を保持」するよう求めているが、強制力はな



衆院選用の投票用紙などを運ぶ新潟市東区の選管職員＝23日、新潟市東区

県選管、投票用紙を発送

27日公示、2月8日投票の衆院選に向け、県選管管理委員会は23日、県内の各市町村の選管へ投票用紙などの投票用紙計377万枚を発送した。

県選管によると、発送したのは小選挙区と比例代表などの投票用紙計377万枚を発送した。

万枚と不在者投票用の封筒など計15万枚。最高裁判所裁判官国民審査の投票用紙は後日発送する。

新潟市東区役所では午前10時前にトラックが到着した。区の担当者は投票用紙などが入った段ボール21箱を次々と庁舎に運んだ。

県選管の担当者は「冬の選挙で足元が悪いが、期日前投票を活用するなどし、有権者は大切な1票を投じてほしい」とした。

今回の選挙経費については、予備費からの支出を最終調整していると説明。総務省選挙部内に設置した「降積雪対策対応チーム」が現場の課題把握に努めているとした上で「財政支援を含めて、選挙の管理執行に万全を期す」と強調した。